

実用化事例

共同研究

結城紬産地における地産地消製品の開発

【共同研究先】

藤貫株式会社

目標

結城紬産地の太い手紬糸を用いるための織物設計とデザイン。

結城紬産地の太い手紬糸を用いた地域住民を対象とした結城紬関連製品の試作。

- ・ 想定する製品の条件

住民が抵抗無く買うもの

身近にあり大切にされるもの

多少高価でも抵抗無く買えるもの



地元神社で使われる

「お守り袋」の開発に着手

役割分担

- ・ 工業技術センター繊維工業指導所
 - ・ 太めの手紬糸を使用した絰織物のための織物設計図の作成。
 - ・ 製品完成予想図の作成。
- ・ 藤貫株式会社
 - ・ 太めの手紬糸を使用した絰織物の試作。
- ・ 地元神社の協力による試験販売にて製品嗜好の調査



試作物、特徴

- ・ 小物向けに結城紬をデザインすることは珍しく、内符の大きさに合わせて袋の大きさや結城紬の特徴である絰模様の位置をデザイン
- ・ 3色試作（赤、青、紫）
- ・ 地元神社御本殿に百年以上使われていた、樹齢二百年以上の檜の古材を内符として使用
- ・ 内符およびお守り袋に使用の神社名は、神社所蔵の茨城県初代知事山岡鉄舟の書によるもの
- ・ 太めの手紬糸の使用により、従来の結城紬着尺とはひと味違った生地

結果

- ・ 試験販売結果 赤色が最も数量が出た。

内訳	色	割合	数量
	赤	32.5%	(39個/40個)
	青	24.2%	(29個/40個)
	紫	23.3%	(28個/40個)
- ・ 価格 3,000 円は、お守りとしては高額である。しかし当初 50 個完売、その後追加 70 個ということから、購買欲と価格は決してつながるものではないことがわかった。
- ・ 今回の試験販売にあたり、新聞やラジオといったマスメディアへちょうど良いタイミングで発表したことが、販売につながったと考えられる。

基礎となった事業

平成20年度 オンリーワン技術開発支援事業（共同研究）

担当部門

紬技術部門（繊維工業指導所） 主任 石川 章弘

TEL : 0296-33-4154